

がら、おそれて、だまつて居るのでありますから、
 形丈は従ふことは従ひますが、心服して居るので
 ありませんから、心はだんくくと反抗してまゐり
 ます。

阿母さんか子供に詫をしないで、只子供に勘恐
 をさせて、それで、勘恐を教へるといふことは、
 よい勘恐を教へる仕方ではありませんで、ほんた
 うの勘恐を教へる場合は、外にいくらもあること
 なくもひます。しかし、阿母さんが、一度詫をし
 た後では勘恐させる様にすることか必要でござい
 ます。

右は私か阿母さんの詫といふことに付いて、考
 へたこととございませうか、皆さんの御教を仰ぐた
 めに述へて見ました。

今昔いろは料理

(番外)

石井泰次郎

初春の料理

一、子木板かまぼこ
 鱧或は小鯛などの、三枚にふるしたるを、小骨
 など能く取り去りて、麻布に包みて水氣を取り
 ぬにのせ庖丁の脊にてよくくたゝき、よく
 煉りて摺鉢に取り、鱧の身十五尾なれば焼鹽二
 匁五分、みりんのにきりたるを二勺堅魚のだし
 一勺程を入れ、能き程にすりて、杉板の薄さも
 のにて小さな羽子板を作り、夫れえ、さしみ
 庖丁にて塗り付け蒸籠に入れむすなり
 模様は紅にて好みになすべし、

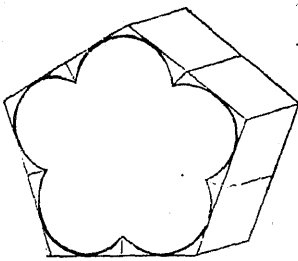
一、子木の子鴨

鴨の身をよくだゝと鹽すこし入れめりけん粉をも鹽の二倍程入れ、煉ませて醬油にて團子位に丸るめ、だし、醬油、みりん、等にて煮わけ。さて羽根の小ささを三五本宛指して羽根の子の如くなすべし、

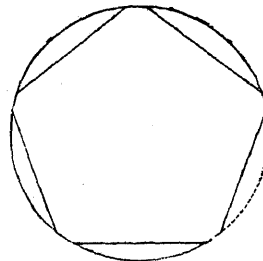
一、梅花くわぬ

くわぬの皮をむき梅花形に切形をなし（切方は後にあり）鍋の煮湯に入れてゆでる事二十分にして湯を搾りさてざらめさとう十五匁、味りん五匁、鹽一匁、を入れて煮る事十分にしてよろし

切方ははじめ大なる丸きくわぬの上下を平らたく切りて五方を少しづゝ切りて五角になすべしあまり正しく切ると小さくなる故少しづゝ切りて置くべし

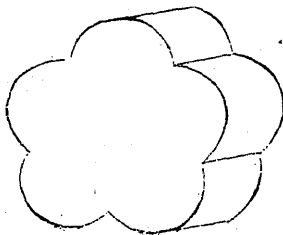


三図



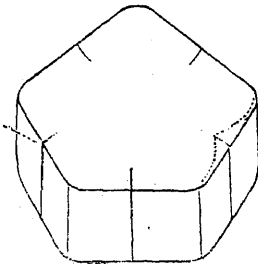
一図

はる短く角を正しく切らば



四図

はる短く角を正しく切らば



二図

はる短く角を正しく切らば

先づ五方を一圖の如く少づ、切て次に第二圖の五方に切り目ある如く小庖丁目を入れて角よりまるみを付けてむくべし

右出来上りたらば中皿に、白にくわぬ三ツ山にして、右の前へはこいた左に羽根をおくべし

傳染病 (一)

醫學士 長瀬復三郎

傳染病と云へは一般に植物性又は動物性の細微体の作用に由て起る疾病でありまして其細菌又は其細菌の排泄物作用によつて一の疾病を起して傳染即ち間接又は直接に他に傳播するものです

其細菌には種々ありまして例へば植物性の細菌にはチフテリア菌、結核菌、コレラ菌、チブス菌、などがあります而してチフテリア菌の如きは好んで咽喉頭氣管及鼻を起し自己の作る毒素の作用

で全身症状を起し又は心臓の麻痺を起します又結核菌の如きは重に肺に住居を定めて肺を侵し又コレラ菌、チブス菌は主に胃腸を侵して下痢を起します

右のチフテリア菌、結核菌、コレラ菌、チブス菌、などの様に病氣の原因になる細菌を病原菌といひます

其病原菌は如何にして人体に入るかといひますとコレラ菌、赤痢菌の様に重に飲食物又は飲料水等によつて入るものあり又結核菌の様に空氣中の塵埃と共に人体に入り或は結核患者の咳嗽時に破傷風、ヘスト菌の如く創口から入るものもあります、つまり病原菌の人体に入る道を分けますと一、呼吸器によつて入るもの二、消化器によりて入るもの三、皮膚より入るもの、三つになります。